

津房ふれあい大運動会実行委員会を開催しました

6 日に津房ふれあい大運動会実行委員会を開催し、今年度の地区民体育大会の開催について協議しました。県内で新型コロナウイルス・デルタ株の感染拡大がとて心配され、地区体を行うことで津房の宝である子供たちを危険にさらしてしまうのではないかと開催すべきか、一同で協議しました。今までかつてない状況で非常に難しい判断ではありましたが、地域で子供たちを育てるという津房のよき伝統で、今のところ開催する方向になりました。しかし今後の状況を見て、開催可否の最終判断を 9 月上旬にしたいと思います。

津房地区公民館便り

編集・発行
津房地区公民館
☎48-2001



当日のお願い

*感染予防対策として、**マスクの着用は勿論**、会場入口で検温、体調チェック、手指のアルコール消毒を行います。

*上記対策の徹底のため地区体の会場入口は**体育館の西側一カ所**にさせていただきます。混雑を回避するため、事前にご自宅で別紙選手名簿裏面の体調チェックにご記入をしてきていただきますと、スムーズに入場できます。

*密にならない競技を選びました。なお、選手の皆さんは競技前に配付する**手袋を着用の上**、ご参加ください。

日時: 9 月 26 日(日) 8 時 30 分～
午前中のみ開催・雨天中止
会場: 津房小学校グラウンド
競技: グラウンドゲート、五輪の輪、ぐるぐるバット、防災訓練

白線引き をしました



駐車場の白線が剥げて見えなくなっていたため、7 月 26 日にまちづくり協議会の岡事務局長と安心院地域教育系の職員で白線引き作業を行いました。

あじろ笠がお似合いな江藤 中央公民館長。江藤館長は津房のために前日より作業がしやすいように準備をしてくださいました。ありがとうございました!



よく見ると長さが違うところがありますが、プロ並みの仕上がりだ、見えやすくなった、と訪れる方から褒められました。

頂いたハトベキアとケイトウ



ケイトウの花言葉が面白いのでご紹介
花言葉:『おしゃれ』、『気取り屋』
ケイトウはドライフラワーにしても色があせないから『色褪せぬ恋』

小学校 避難訓練

7 月 16 日に小学校の避難訓練があり、第 2 避難場所である公民館へ避難してきました。1 年生は 6 年生の先輩たちが輪っかを挟んで手をつないで、優しくサポートをしていました。

お…押さない
は…走らない
し…喋らない
編集者の子供の頃と同じ
避難訓練の鉄則です



乾パンを試食。子どもたちにとってはおいしいものだったようです。

津房句会

六月例会

大隈草生 選

六月二十七日(土)

兼題 (花菖蒲・田植・螢)



雨傘を掛けてあげたい花菖蒲・洋子

(評)花菖蒲は梅雨どきの代表的な花。抜きん出た花茎の頂きに大きく優雅な花を咲かせる大きな花片が雨に濡れてうなだれる姿は風情がある。濡れそぼつ花に傘をさしてあげたいと思う母性愛にも似た温かい気持。俳句には作者の心情が表現される。

それのこと親からさわぐ螢がり・寂蓮

天気図は雨の日ばかり花菖蒲・聖枝

田植え終え静寂戻る棚田かな・茂

田植えの日今日は朝から日本晴・一圭

納屋の壁昼の螢が一つ這う・草生



笑顔あふれる幸齢社会

「息子が、私の知らない男性とニコニコして話をしています。“さっき話していたおじいちゃん是谁?”と聞くと、毎朝、通学路に立ち、子どもたちの安全を見守ってくださっている交通指導員の方だとわかりました。子どもたちが地域とつながり、地域の中で守られていることを感じ、感謝の気持ちと、ホッと安心するような気持ちになりました。」これは、夏休みになって、小学5年生の息子さんとスーパーに買い物に行った知人の話です。

「高齢社会」となり、体が衰え、認知症などの状態にある高齢者が増えています。高齢者を虐待したり、財産をだまし取るなどの高齢者の尊厳を否定する事件や、一人暮らしの高齢者が孤独死する悲しい事件が報道されています。

幸せに歳を重ねたいと誰もが願っています。誰もが「長生きしてよかった」と思える社会にするにはどうしたらいいのでしょうか?

生きがいを持って、健康で長生きする高齢者がどんどん社会に参画していき、地域の高齢者が地域の子どもたちを見守り、地域社会を支える力になってほしいと思います。そして、若い世代は、高齢者に支えられていることを忘れてはいけません。

年齢に関係なく、生きがいを持って働き、スポーツや趣味に挑戦し、おしゃれも楽しめる、そういうそれぞれの個性が尊重される笑顔のあふれる「幸齢社会」にしたいものですね。

大分県人権啓発コラム「心ひらいて」より
安心院中央公民館 大久保和則



津房の歴史

小野さんの

IV.景行天皇が憩う

鹿皮石八幡神社 (大内)



豊前・道の駅おこしかけは神功皇后がこしをかけてお休みになられたのでこの名がついた。

大内集落・鹿皮石八幡神社は12代景行天皇かのかわいしが熊襲くまそ(現在の熊本や鹿児島にかけてあった襲国の部族とされる)征伐の行幸の折、路傍の椿に馬をつなぎ、鹿皮を敷いた石にお休みなされたと言い伝えられている。今も注連縄を張り大切に祀られている。またこの神社に木下俊長(豊後国日出藩主)寄贈の鳥居がある。徳川家康と良い関係にあった豊臣秀吉の正室・ねねの一族が豊後日出藩を江戸の時代治め、生きのびた。昭和30年代まで大内など南畑は速見郡元日出藩で、鹿皮石八幡神社は格式のある神社。最近まで秋の大祭には、嫁いだ娘や子供、親族が集まり食事をしながら神楽を楽しんでいた。

編集者はちょうど1年前に鹿皮石神社のお話を聞いて訪ねました。現在の天皇陛下は126代です。悠久の歴史に思いを馳せていました。



景行天皇が腰かけた鹿皮石

木下俊長直筆の書がある鳥居